

## 『ほれまる』ミニトマト栽培指南

## 【トマト】

原産地 : 南アメリカ高地(標高 2~3,000m)  
 発芽適温 : 20~30℃  
 栽培適温 : 昼間 25~26℃、夜間 15~16℃  
 ※原産地は強光条件だが、比較的涼しく、乾燥している  
 ⇒30℃を越す高温条件や、多湿条件は苦手

## 1、畑の準備

灌水 定植前のたっぷり灌水で圃場地下に貯水する  
 施肥 窒素:リン酸:カリ(成分量) = 20~25kg:25~30kg:20~25kg  
(雨よけ夏秋どり栽培の場合)  
 耕耘 灌水⇒施肥の後、圃場表面が乾いたら耕耘  
 畝立て 圃場のサイズに合わせて畝幅を決める  
 ・春先の定植なら、ポリマルチ被覆して地温確保  
 ・夏過ぎの定植なら、白黒ダブルマルチ+敷きわら等で地温抑制

## 2、播種・育苗

準備 播種するセルトレイ、またはポットを準備し、培土を詰める  
 播種 灌水後に播種、出芽までポット表面を新聞紙で被覆し、乾燥を抑制  
 被覆除去 半分のセルまたはポットから出芽が確認されたら急いで新聞紙をとる  
 育苗期間  
 ・セルトレイ育苗では根鉢が回ってから+3日まで  
 ・ポット育苗では第一花房の蕾が米粒大になるまで  
 ⇒苗をやや老化気味にして草勢を抑え、第1、2段の果実肥大抑制

## 3、定植

慣らし 定植前に1週間ほど外気温にさらして慣らしを行う  
 栽植密度 坪当たり7株前後(2,100株/反)を標準とする  
 ※密度が低すぎると裂果、高すぎると空洞果を招くので要注意  
 定植 春先なら午前中、夏過ぎなら夕方に行い、苗の根つきを促進する

## 4、整枝、枝かき、適葉

整枝 『ほれまる』栽培においては、1本仕立てを推奨

- 脇芽・枝かき
- ・第一花房下の脇芽は早めにかき、株元の通気性を確保する
  - ※但し、1～2 段目のミニトマトの大きさを抑えたい場合は、第一果房直下の脇芽を敢えて伸ばして、草勢を抑える
  - ・草勢が強い場合……脇芽、枝は無理にかかず、草勢を分散させる
  - ・草勢に問題がない場合……脇芽、枝を全てかく
  - ・但し、花房直下の脇芽は全てかく
  - ※放置すると花房の生育、果実の肥大が悪くなる
  - ・最終収穫花房決定後、最終花房に着蓄したら、主枝の摘心を行う
- 
- ・過繁茂で果実を覆う葉があれば部分切除して果実に日光を当てる
  - ・一段収穫するごとに、その下の枝、葉はすべてかく

## 5、追肥

### 追肥時期

- ・草勢が普通なら、3 段目が開花した段階で追肥を行う
- ・草勢が極端に弱いようなら、より早く行う
- ※【草勢の目安】3 段目着蓄時、節と節の間が極端に長い、葉の捻れが全く見られない等の状況を呈していたら草勢が弱っている

### お奨め肥料

「有機一発肥料・果菜類用」の利用で追肥の手間不要に！



## 6、収穫

### 収穫適期



### 収穫時間

- ・朝露が下りるまでの早朝に収穫するとトマトが濡れずに済む

以上